

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立畑地小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを愛し、一人ひとりが輝く、畑地の子の育成
基本方針	1 一人一人のよさを伸ばし、基礎・基本の定着を図りながら知・体・徳の調和のとれた児童の育成に努める。 2 ふるさとを愛し、ふるさに貢献しようとするシビックプライドの醸成を目指し、学校運営協議会と連携した地域とともにある学校づくりを推進する。 3 教職員の一人一人のよさを生かし、幅広い研修をとおして、教職員の指導力と学校の組織力を高める。
本年度重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 3 学校全体で取り組む生徒指導の充実 4 安全・安心で充実した教育環境の整備 5 特別支援教育の充実と人権・同和教育の推進 6 学校・家庭・地域が連携した特色ある学校づくり

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	① 全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B A	A
	② 授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B B	B
		一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B
	③ 家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
④ 読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B C B	B	
⑤ ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B A	B	
(成果と課題) ・全国学力調査及び県学力調査の結果を分析をすることで、今後、学級で取り組むべき課題を明確にすることができた。 ・読書活動については、保護者の評価が目立って低い。 ・ESDカレンダーを活用しながら、教科の横断的な「ふるさと学習」を進めることができています。 (改善策等) ・ロイノートやEILSを、効果的に活用することで確かな学力の定着と向上につなげていく。 ・ファミリー読書週間を、学期に2回程度実施することで、家庭と連携しながら、読書活動の充実を図る。 ・地域ボランティアや資源等を有効に活用して、地域に根ざした多様な教育活動を計画的に進めていく。					

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	① 規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
	② 児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B B B	B
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B A B	B
		いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B B	B
③ 基本的生活習慣の徹底	基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・保護者アンケート	B B B	B	
④ 自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にを行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童アンケート ・教師アンケート ・児童アンケート	B B B B	B	
(成果と課題) ・定期的な教育相談を実施することで、児童の内面に寄り添うことができています。 ・自己肯定感や自己有用感については、高学年になるほどポイントが低くなっている。 (改善策等) ・児童一人ひとりとしっかり会話をし、心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する。 ・主体的に取り組む体験活動を通して、児童一人一人が自分のよさを安心して伸ばしていくことができるような指導・支援を行っている。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革に努めた。</u>	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B B	B
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとらわれることなく取り組んだ。	・教師アンケート	B	B
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職による「働き方改革」についての研修を実施することで、仕事も家庭も充実させることの大切さを考えながら、職務に専念することができた。 ・温かく働きやすい職場づくりに努め、教職員相互のサポート体制がよくできている。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで行っていることについて、不必要だと思うものはやめる、もっと効率的にできないか考えるなど、業務の精選が必要である。 ・教職員間でのコミュニケーションを活性化させ、教職員の働きがいのある魅力的な職場づくりに努める。 					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A B A	
		情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B A	
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	B B B	B	
<p>(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの評価では、学校だよりや学校ホームページによる広報活動への評価が高くなっている。 ・地域コーディネーターが一生懸命動いていただけなので、地域との連携がスムーズにできている。 ・生活科、総合的な学習の時間を通して、地域の人材を有効に活用できた。 <p>(改善策等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会委員、畑地小応援ボランティアの方が、いろいろな面で協力していただいている。学校も地域の公民館活動等にも積極的に出向き協力していきたい。 ・地域の方が学校に来ていただく機会を増やすだけでなく、学校が地域に向かう機会を増やしていく。 					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満